妹背牛町と北海道科学大学　地域社会の発展と人材育成に向けて連携

妹背牛町と北海道科学大学（札幌市）は5月15日、地域の発展と人材育成などに向けて協力する地域包括連携協定を結びました。妹背牛温泉ペペルのサービス向上や集客イベントの提案、特産品開発や販路拡大方法の考案など、専門性の高い大学と学生の知見を今後のまちづくりに生かします。

協定の内容は、「地域課題の解決」「人材育成」「教育・学術」など5項目。同大と空知管内の自治体が同様の協定を締結するのは4例目で、妹背牛町が大学と包括連携協定を結ぶのは初めてです。

同大は2027年度、学生が地域に出向いて課題解決策を探求する「地域創造学部」（仮称）を創設する計画。創設後は、地域資源を活用した観光施策の立案、ふるさと納税の返礼品を生産する施設の見学、地元イベントへの参加などを予定しています。

町保健センターで開かれた締結式で、川上敬学長が「地域を支える人材を育成するには、地元の方たちとコミュニケーションをとり、その地域のリアルを学ぶことが重要」と協定の趣旨を説明。滝本昇司副町長は「妹背牛町の地域資源と、大学の高度な専門性をかけ合わせることで幅広い分野での連携に期待できる」と述べました。



協定書を交わした滝本副町長（左）と川上学長

新鮮な農産物、地元特産品を販売


オープン初日から買い物客でにぎわう農産物直売所

妹背牛町農産物直売所「SUN工房あぜみち」が5月15日、今季の営業を始め、初日から新鮮な野菜を買い求める人たちでにぎわいました。

直売所では、地場産の野菜をはじめ、色鮮やかな花の苗、町民手作りの小町みそや浅漬けの素、福神漬けなどを販売。この日は妹背牛産アスパラが人気を集めたほか、10月末まで旬の農産物を売り出します。

営業時間は午前10時～午後5時まで。定休は月曜日。

福寿草の会 ごみ拾いボランティア


道路ののり面に捨てられたごみを拾い集めるメンバー

妹背牛町老人クラブ連合会の有志でつくる「福寿草の会」（清水伸治会長）は4月26日、町役場前から深川市へ向かう「山1線」の道路沿いでごみ拾いを実施しました。

同会は、ボランティア活動を通じて、環境美化への意識を高める取り組みを続けています。

この日は約20人がごみ拾いに参加。往復約4キロの距離を清掃し、道路に落ちていた空き缶やスナック菓子の袋などを拾い集めました。

新隊員の米林さん　熱波師めざす



「ペペルを盛り上げていきたいです」と意気込みを語る米林さん

妹背牛町の新しい地域おこし協力隊員として、米林弘樹さんが5月7日に着任しました。妹背牛温泉ペペルの熱波師をめざします。

深川市出身の米林さんは札幌の金融関係の会社に就職。一方、自身も大のサウナ好きでゆかりのある妹背牛の協力隊に応募しました。

現在は温泉の業務を覚えながら、熱波師をめざして修行中。米林さんは「トークやパフォーマンスも磨いて、サウナを楽しんでくれる人を増やしたいです」と話しています。

只石さんに総務大臣感謝状



総務大臣感謝状を持つ只石さん（左）と山路局長

2009年4月から2025年3月まで8期16年にわたり、行政相談委員を務めた只石佳一さんに、総務大臣感謝状が贈られました。

行政相談委員は、国の業務に関する意見や要望などを受け付け、苦情の解決に向けた助言・通知を行う民間有識者です。

4月21日、山路栄作・北海道管区行政評価局長が妹背牛町役場を訪れ、総務大臣感謝状を伝達。只石さんの長年にわたる功績をたたえました。

防火パレード 火防査察で火災予防



市街地を巡回し、火災予防をPRする消防車両

空気が乾燥し、火災が発生しやすい季節を迎え、「守りたい未来があるから　火の用心」を統一標語とする春の火災予防運動が4月20日～30日の日程で、全道一斉に行われました。

妹背牛町内では21日、防火パレードが行われ、消防車両などが市街地・農村地区を巡回。地域住民に火災予防を呼びかけました。

また、この日の火防査察では、住宅火災予防を周知するチラシが各家庭に配られました。

特殊詐欺の被害防止「三久ファミリー」



特殊詐欺の危険性がある電話番号について学んだ参加者たち

健康体操を通じて町民同士の交流を深めるグループ「三久（さんきゅう）ファミリー」は4月22日、町内中心部のわかち愛もせうしひろばで特殊詐欺防止の講習会を開きました。

月2回の健康体操を続けている同グループは毎年、専門知識を持つ講師を招いて生活に役立つ講習会を開催。

この日は、妹背牛駐在所の木浪正人所長が特殊詐欺の危険性が高い電話番号や国際電話の止方法などを教えました。